

本学教官執筆書籍の紹介

近藤 均ほか編集委員

生命倫理事典

A 5判、984ページ、15000円、太陽出版、2002年12月刊

近藤 均

本書は、生命倫理（バイオエシックス）の分野では本邦初の網羅的な専門事典である。生命倫理が学際的な研究分野であることを反映して、執筆者は、哲学・倫理学関係者をはじめ、医学・保健学・看護学・歯学・薬学・生物学・農学・化学・社会福祉学・宗教学・教育学・法学・経済学・心理学・歴史学・社会学・文化人類学など、さまざまな領域の専門研究者からなっている。見出し項目は1400を超え、執筆者は173名に及んでいる。

やがて患者の大切な生命をあずかることになる医学部の学生にとって、在学中に生命倫理の学習が必須であることはいうまでもない。本学のカリキュラムでも、生命倫理の重要性は「社会医学基礎」「人間科学」「応用倫理」「医療人間学」「インフォームド・コンセント論」など、さまざまな科目で力説されている。しかしながら、ここ数年間に日本で刊行された生命倫理関係の出版物は、オリジナル・翻訳を合わせ膨大な数のほり、いざ学生が自学自習しようとする、参考書の選択に迷うことも少なくないであろう。

第一線の研究者の論考のうちには、専門的すぎて全く歯が立たないようなものも散見される。その一方で、生命倫理の比較的広い分野を網羅的に扱ったものだと、欧米におけるこの分野の学問的到達水準に比べ、かなり見劣りのするものも少なくないようである。生命倫理を学ぼうとする医学部の学生が必要とする出版物は、こういう両極端を避けたもの、すなわち、この学問分野の全体像を網羅的に見据えていて、しかも一定の学問的水準を備えたものであろう。なかでも、この分野で問題になっている事項のテクニカルタームの意味を冷静かつ客観的に解説した事典は、必要不可欠なツールであろう。

しかしながら、日本の出版界をみると、生命倫理分

野では、キーワード集のような小規模のものでさえ、いっこうに出版される気配がなかった。そこで、多かれ少なかれ医療系の大学で生命倫理の教育に携わってきた私たち5名の編集委員（岩手医大の酒井明夫、東洋大の中里巧、浜松医大の森下直貴、富山医大の盛永審一郎各教授および筆者）が、非力を顧みず本書を企画した。学生だけでなく、生命にかかわるさまざまな分野の専門家・職業人の使用にも耐え得る高度な内容を目指した。作業開始は1998年3月であった。

幸いにして、ベテランから新進気鋭の方々まで、多くの研究者諸賢の御協力を得ることができ、本書は予想外の速さで2002年10月に完成した。旭川医大所属の先生方からも大きな御支援を得た。項目を御執筆くださった方々の御芳名を五十音順に列挙させていただくと、塩野寛・清水恵子・千葉茂・林要喜知・廣岡憲造・廣川博之・松岡悦子・松原和夫・望月吉勝の諸先生である。以上の先生方には、この場を借りて改めて深く感謝申し上げたい。

売れ行きのほうも好調で、発売開始から10ヶ月を経た2003年10月には初刷がほぼ完売となった。目下、誤植等を訂正した第2刷を準備中であり、遅くとも年末には発売されるはずである。とはいえ、本書は、ただでさえ進展の著しい分野の、そのまた第一線の事典である。したがって、数年もしないうちに内容が実情に合わない面が出てくることが予想される。そうならないうちに増補改訂版を刊行すべく、すでに準備作業に着手した。定価は据え置くが、総項目数も項目ごとの字数もそれぞれ3割ほど増やし、巻末の参考資料（法令集・年表・文献目録など）もいっそう充実させる予定である。2006年春の刊行をめざしている。

（旭川医科大学 歴史・哲学）